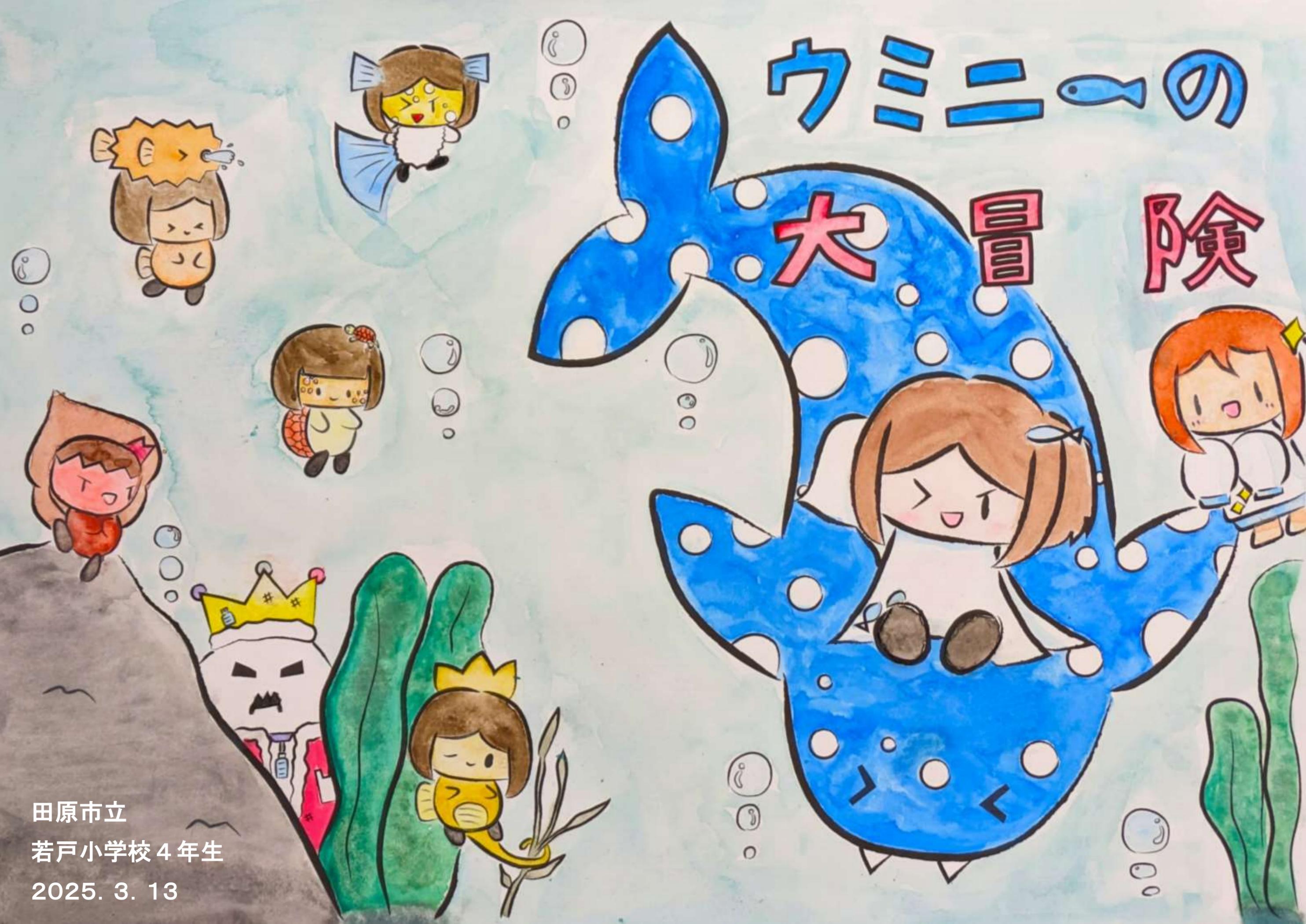


ウニニニの

大冒険



あるがっこうのすいそうに
海のようにうまれました。
なまえは、「ウミニー」

コブヨコバサミ

フグ

すいそうのなかには、
たくさんの海のいきものたちがくらしています。

ハリセンボン

サンゴタツ



ウミニーがすいそうのなかをおよいでいると、
おおきなヤドカリがパイプをのぼっていました。

「なにしてるの？」

「おれさま、海にもどりたいたんだ。
海はひろくてキラキラしていて
きれいなところなんだ。」

そのはなしをきいて、
ウミニーは「海」にいつてみたくなりました。

「どうやったら海にいけるんだらう。」
ウミニーがかんがえていると、

「そんなに海にいきてえのか。
だったらおれにまかせときな！」

おおきなヒレをもったフグが
いきおいよくみずをとばしました。
「うわー！！」

すいそうのそとにとばされたウミニーは、
すなはまにたどりつきました。





「ここが海？すごくひろい！！」
ウミニーははじめてみる海におおはしゃぎ。

でも、あしもとをみると、
きたないものがたくさんおちています。
ウミニーは1つひろってみました。
「なんだろう。」

「それは、ゴミってやつだ。」
とおりがかったウミガメがおしえてくれました。

「ゴミは、オラたちいきもののできなんだ。
まちがえてたべてしまって、しんでしまったやつもいる。
ゴミがあると海はきたなくなって、
あんしんしてせいかつできないからこまっているんだ。」

「それはたいへんだ。ぼくがゴミをなくしてくるよ。」

ウミニーは、こまっているいきものたちをたすけるため、
ゴミをなくすたびにしゅっぱつしました。

ウミニーがゴミをさがしながらおよいでいると、
まえのほうからジンベイザメがやってきました。

ジンベイザメのおなかには、
たくさんのコバンザメがくっついていきます。
そのなかに、ようすのちがうものがありました。

「ジンベイザメくん、なにがついているよ。」

「え！？とってとってー!!!」



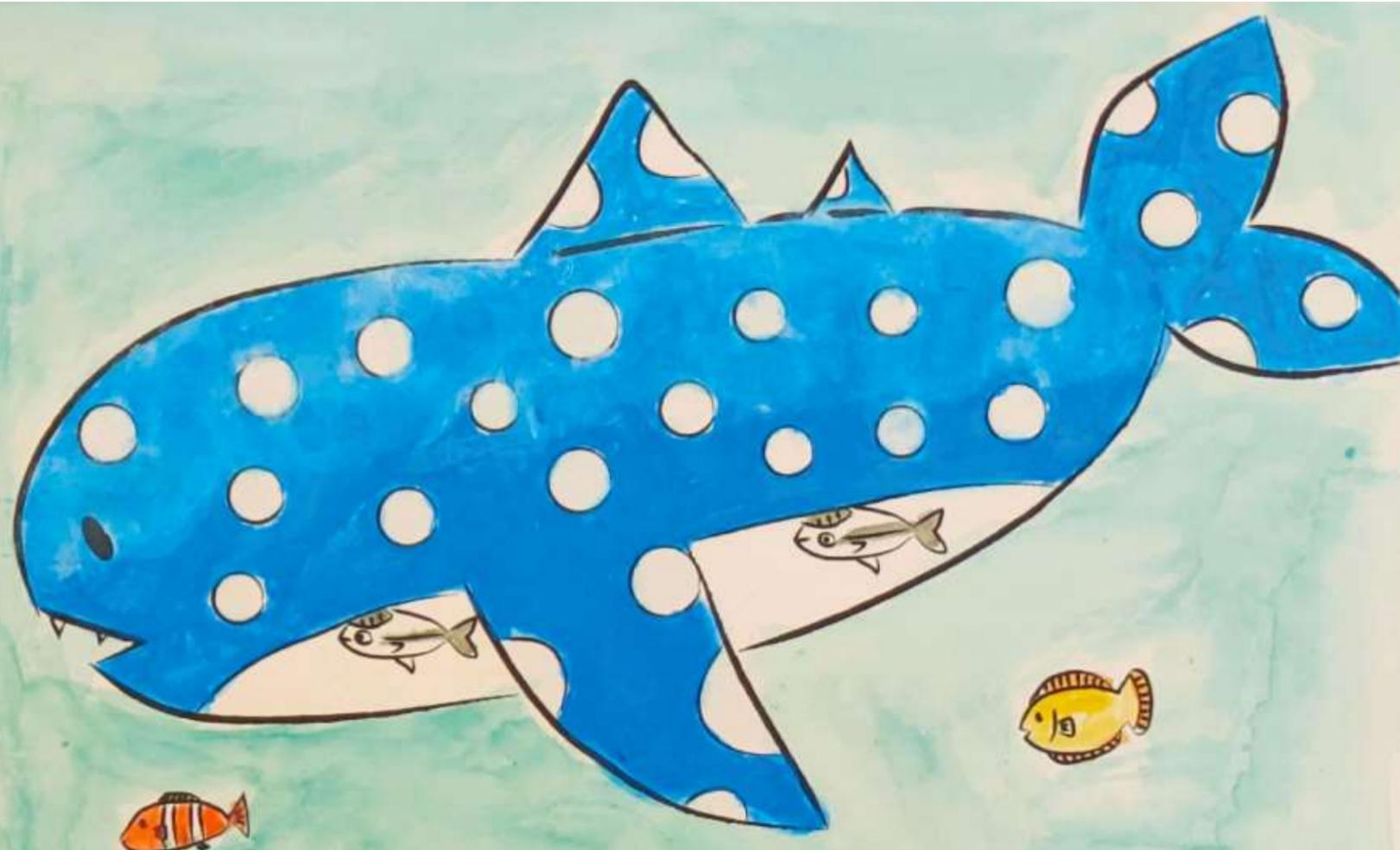
はたしじょう♡

キラニーは のった

たすけてほしければ

ゴミかいがんにこい!

ゴミ・ゴーニより



「海がきたないとおもっていたら、キラニーがさらわれていたのか。」

ジンベイザメがいました。

「キラニーってだれ？」

「キラニーは海をきれいにしてくれるようせいだよ。

いないと、海がきたなくなっちゃうんだ。」

「キラニーをたすけて、海をきれいにしなくちゃ！」

ウミニーとジンベイザメはいっしょにおよぎだしました。

